2020 年 12 月 1 日　月例研修会アルバム

# 當麻寺・二上山（雄岳・雌岳）に登る

**行 程**：当麻寺駅 9:40 出発→當麻寺境内を経て黒門→山口神社・傘堂→當麻池→烏谷口古墳→祐泉寺→これより登山道
雄岳と雌岳の鞍部→雄岳・大津皇子の墓
雌岳（ここで昼食）→岩屋峠→祐泉寺→當麻寺（中将姫の墓）
→近鉄当麻寺駅 15:00 頃予定　（約 8.4km）

**日 時**：12 月 1 日（火）　**天気**：快晴
**集 合**：近鉄当麻寺駅改札口 9 時 30 分
**参加者**：20 名　本年初の月例研修会

**當麻寺**：高野山真言宗と浄土宗が並立している寺。中将姫が織ったという當麻曼荼羅で有名。
羽尻世話人の熱心な解説を聞く。

まずは集合写真を。

しばらく行くと二上山麓に鎮座する**當麻山口神社**に到着。この赤い鳥居は大津皇子の墓のある雄岳の方角に向いているとか（中井世話人解説）
真柱に瓦屋根の珍しい傘堂　県有形民俗文化財

うつそみの人なる我（あれ）や明日よりは二上山（ふたかみやま）を弟背（いろせ）と我（あ）が見む
大津皇子の姉（大伯皇女）が弟を偲んで詠んだ歌　万葉歌碑の前で戸田世話人の名解説。

大津皇子が葬られている、と言われている**烏谷口古墳**前で、複雑な人間関係を分かりやすく説明する中井世話人。悲劇の皇子として今も人気が高い。

二上山登山口にある**祐泉寺**。全く人の気配なく、紅葉に囲まれ鬱蒼とした天台宗の末寺。ここから道が二手に分かれるが、我々は馬の背を目指して出発する。

すぐに坂道になる。この階段が厳しい！一歩一歩自分の体を持ち上げる。初心者でも手軽に楽しめる山とのことらしいが・・・。

ならやま活動で鍛えた体だがこの坂道はこたえるなあ～。大きな銀杏の木の下、黄色い絨毯に腰を下ろし一休み。服を脱いで水分・糖分を補給して・・・と。

やっと馬の背に到着、もうヘトヘト！ここで最後の休憩をとる。雄岳までもう少し、「後 10 分で頂上です！」の声に励まされ立ち上がる。

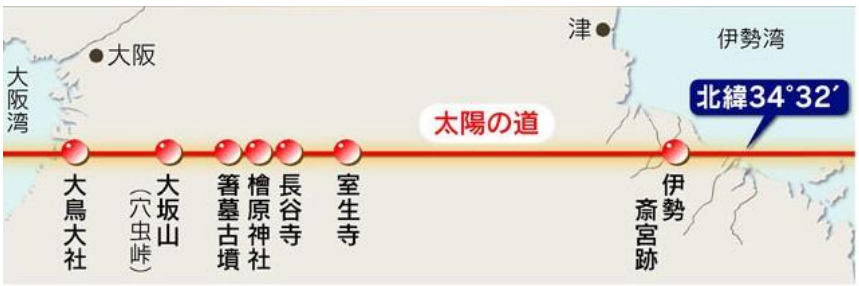
**雄岳**頂上（517m）近くにある**大津皇子の墓**に到着。記念撮影（写真冨井さん）

天武天皇の第三皇子として生まれながら 24 歳で謀反の罪をきせられ死罪になった**悲劇の皇子の墓**

辞世の歌：**ももづたふ 磐余（いわれ）の池に 鳴く鴨を今日のみ見てや 雲隠りなむ**

雄岳展望台からの眺望：眼下に大阪平野が広がり、遙か向こうに見えるのは瀬戸大橋か！かすかに淡路島も・・・。

**雌岳**（474m）に到着。頂上に大きな日時計がある。広場になっていて近くの保育園児たちが遠足で来て元気に走り回っている。見晴らしよし！天気よし！ここで昼食。　金剛生駒紀泉国定公園の看板あり。



雌岳頂上に**太陽の道**の看板がある。北緯 34° 32′ の線上に箸墓古墳･檜原神社・長谷寺・室生寺をはじめ大和盆地の著名な遺跡、社寺などがほぼ一直線に並んでいる。二上山雌岳もこの線上に近接している。

下り岩屋峠

やっと祐泉寺まで降りてきた

**中将姫の墓**:當麻寺に伝わる當麻曼荼羅は中将姫が蓮の糸を用いて一夜で織り上げたと言われている。また中将姫が阿弥陀如来に導かれて西方浄土に旅立ったという伝説により當麻曼荼羅が信仰の中心になったという中将姫伝説を羽尻世話人が解説

出発地の当麻寺駅に到着。駅前で名物のよもぎ餅を買う人たちが列をつくる。
みなさまお疲れさまでした。楽しい月例研修会をありがとうございました。

**二上山**：雄岳と雌岳が寄り添って並ぶ優美な山。千数百万年前には活発な火山活動があり噴火によって多くの火成岩が分布しています。なかでもサヌカイト・凝灰岩・金剛砂はその後の人類文化の発展に大きく寄与した岩石、鉱物です（香芝市ＨＰより）
春秋の彼岸の中日には、その間に夕日が沈んでいくのを見て古代大和の人々は二上山を境に、東側はこの世、西側はあの世、つまり西方にあるという阿弥陀仏の極楽浄土へ往生することを願うようになりました。

2020 年は新型コロナウイルスに振り回された一年でした。コロナウイルス感染症のニュースを聞かない日は一日もなく、年末の今も感染者数が連日増加しており、このままでは医療崩壊も近いと関係者は危機感を顕わにしています。本来なら東京オリンピックが開催され、世界中から多くの観光客が押し寄せ最高に賑やかな年だったはず。どうか来年は新型コロナウイルスが去ってくれることを祈りつつ・・・・。

**参加者**：太田・守口・松尾・辻・田中（善）・吉村・山中・永井・寺田（孝）・福田・塩本・尾崎・高間
森・森田・青木（幸）（順不同）　　**世話人**：羽尻・中井・戸田・冨井　　アルバム：青木（幸）